

城南塾

201HR 井出 優花

城南では、毎年SSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業として城南塾を開催し、各界で活躍されている方から在校生に講演をしていただいております。

今回は、十一月十七日（木）に徳島大学准教授の山口堅三先生（平成九年度卒）をお招きしました。新型コロナウイルスの影



響が落ち着いたので、久しぶりに生徒を体育館に集めて、そこで先生に「大学のいろは」という題目で講演していただきました。先生は、徳島大学をはじめとしていくつもの大学で研究され、英国のケンブリッジ大学に籍置かれたこともありました。そして、再び徳島大学のポストLEDフォトニクス研究所で最先端の研究をされています。

大学とはどういうところか。高校とは何が違うのか。生徒達が漠然と疑問に思っていたことをわかりやすく丁寧に説明して下さいました。また、ご自身の体験談の中から、「自分が何かにハマるものに出会えるのは良いことである」、「英語での表現が難しくても積極的に話しかけることが大切である」など、これからの将来に向けた激励の言葉をかけていただきました。

講演内容は割愛させていただきますが、講演を聴いた生徒の感想を掲載します。

近頃、自分の将来について考える場面が増えてきました。学校でも、休み時間に勉強をしている友達が増えてきたり、話題としても来年の受験・どの大学に行きたいかなどが挙がることも多くなったなと感じます。私もどこの大学を受験するかは決めているけど、具体的にいった先で何がしたいのか・研究を進めたいのかは漠然としていました。でも、今日の講演会で山口さんの話を聞いて、将来のイメージを持つことはすごく大切に、可能性は無限大なんだと思うことができました。

私も大学に進学したら、自分がハマる・夢中になる瞬間に出合えるまで研究してみたいです。今のところ教員以外に、徳島における町おこしや地方と都市部との様々な格差、その解決方法などに興味があります。そのために山口さんが話していた自己分析を今のうちからしておきたいと思いました。自分の興味・関心について書き出していくだけでやりたいことが見えてくるのは簡単で実践しやすいと思ったので、今日家に帰ってやりたいです。

また、留学の話にも興味を持ちました。やはり日本に留まらず、海外に飛び出して異文化間の交流をすることで得られる経験や、見えてくるものがあると再確認できたので、奨学金などの制度を上手く利用して短期でも留学してみたいと思いました。そのためにも、もっと英語を勉強して英語力を高めていきたいです。理想の将来の自分を思い描いて、モチベーションを上げながら頑張ります。

202 HR 長瀬 宗

今回の講演会を終えて、自分は山口さんの留学している時の話が一番興味を持ちました。

一つ目は、ケンブリッジ大学の人は分らないことがあつたらそれが分かるまで二時間も三時間も話し合えると言うところ。自分も何かわからないことがあつたらそれが分かるまでは絶対に話し合うタイプなので、そういう環境があればもっと自分も成長できるし、もっと物事を上手く伝えられるようになるのではないかと思いました。

二つ目は、山口さん自身が留学前の武者修行の時、最初の三か月くらい全く会話せずに過していたが、それをダメだと思つてきれいな文法ではないけど積極的に自分のできる全力の知識を活かして、少しずつ会話できるようになっていったところです。自分もとても英語が苦手で、積極的に行動していくのも得意ではないので、山口さんは本当にすごい人だなと思いました。やっぱり何事も自分から積極的に動き出して、どんなことも前向きに行動していくことが一番大切であり、同時に難しいことだと思えます。しかし、それができる人が将来社会に出た時に第一線に立っていきけると思うので、自分も少しずつ何事にも積極的に行動したり表現していけるようになっていきたいです。すごく自分のためになるすばらしい講演会でした。

203 HR 大浦 颯真

大学についての興味深い話が聞けて、とても有意義な時間だった。HRの時間を使つて大学について調べたり、昨年大学を卒業した兄から話を聞いたたりして、大学に

ついて調べる機会が増えた。しかし、実際にどういふ所なのか、どういふことを学べるのかといった具体的なことがいまひとつ分かつていかなかったため、カリキュラムの組み方や内側から見た様子などを聞けてとても良かった。また、研究内容は文系の自分にはあまり関わりのない話ではあつたものの、研究の進め方や卒業研究のテーマの決め方などは将来参考にしてみたいと思う。



研究を進める説明の中で特に印象に残ったのは、アニメ「ハイキュー」のワンシーンと共に説明のあった「ハマる瞬間を見つける」である。僕もこのアニメが好きで、特に印象に残っているシーンでもあるため、何と伝えたいのかすぐに分かった。「ハマる瞬間を見つける」のはとても難しいと思う。物事にハマるまでには、辛いことや苦しいことがたくさんあるからだ。しかし、それを乗り越えてハマってしまえば人は大きく成長できる。それは、山口先生の仰っていた「研究の成果」なのだろう。

僕はまだ勉強にハマることができていない。大学受験に向けて準備をしないとけない時期だが、いまひとつ身が入らない。しかし、今回の講演を聞いて、自分なりに勉強を楽しいと思えるようにすればいいことに気がついた。物事にハマる瞬間を自分で見つけられるように、見方を変えていきたい。

203HR 寺田 結

今回の講演会で特に心に残っていることは、二つある。留学についてと大学がゴール

ルではないということだ。

一つ目について、私も中学生の頃から留学に興味があった。一番の理由が環境についてだ。地域性にもよると思うが、私のイメージでは自由で勉強熱心だということだ。実際に留学した方が私の想像通りのことを伝えてくれて、より海外へ行ってみたいと思うようになった。

二つ目の「大学がゴールではない」という言葉は、私も大学を卒業した後のことに不安をもっていたからだ。大学はたった四年しかなく、重要なのはその後の人生であると思う。そのためにも、大学の四年間で何を学ぶのが大切になってくると思う。大学卒業後、私は何のために働くのかというのを、大学を決めるまでにもっと具体的にしておくべきだと思った。

海外で学ぶことについて、日本の大学に入りその在学中に留学するのか、あるいは海外で大学進学するのか、どちらがよいか質問すればよかったなと後悔した。今回は理系の話が多かったが、どれも興味深いものだった。これから自分が何をしたいのか、自分についてもっと向き合っていこうと思った。



204HR 濱田 琳

今回の城南塾で、大学とはどのようなか更に知ることができました。年間でかかる学費は高いことを知っていたけど具体的に国立、公立、私立などを分けて説明してくれてわかりやすかったですし、学校によっては家が一軒つくれるほどのお金がか



かるといふ衝撃を受けるようなお話までしていたら非常に興味深かったです。また、国立大学では学生数に対して教員数も多いので、学生と教員が密に関わることができるといふ話を聞きました。私はあまり人が多い所で質問したりするのが苦手なので、それならば気軽に質問ができると思います。大学は空き時間も結構あるので、授業で分からなかったことを終了後すぐにじっくり考えることができたり、質問に行けたりするのでいいなと思いました。

大学の施設・設備・制度などもきちんと調べて活用していきたいと思いました。卒業研究などで論文を書くとき、図書館の電子ジャーナルで論文を検索するとか、奨学金を有利にもらうためにTOEICなど英語の勉強をしておくとかよいなど、今日聞かなければ知らなかったような情報がたくさん得られました。また、留学先での経験を話して下さったときに、自分の英文法がおかしいと思つて話をしなかつたら相手は私を何を考えているかわからない。だから、積極的に話した方がいいという言葉聞いて、もっと何事も恥かしがらずに挑まなければいけないと思いました。

何かに打ち込めば必ずそれに「ハマる」瞬間が来る。私はまだハマるという感覚をよくつかめていませんが、自分の好きなこと・得意なこと・興味のあることなどに自分の中で何かに打ち込み、それを磨いて自分の力にしていきたいと思いました。

205 HR 出葉 咲帆

山口さんの講演を聞いて、自分が将来社会に役に立ちたいという夢は、どこの大学

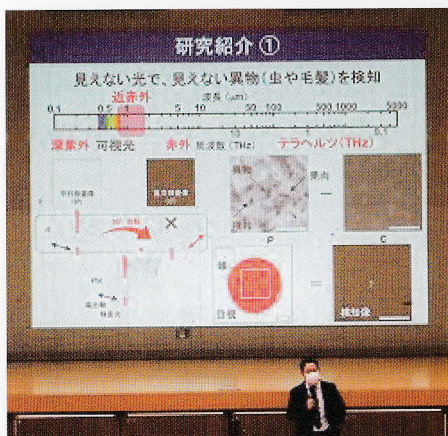
が一番叶えやすいかを考えたいと思いました。私の行きたい大学は六年制で、高校よりも多くの時間を費やすことになるので、後悔をしないような選択をしつかりしたいです。

一番印象に残っているのは、「はまる」といふ言葉です。何か自分ではまることができたら、その時に嬉しさや楽しさを見出すことができるのと知り、私は何にはまることができるといふので考えました。今、私にはまっていることは『阿波おどり』などの趣味でしているものですが、将来の夢である「助産師」についてもはまることができるはずだと強く思うことができました。大人になって「助産師」という職業にはまっていたら、今の自分の選択は間違いはなかったと思います。

また、もっと英語を勉強しようと思いましたが、留学の話聞いた時に私も世界に行つて自分が見たいことをしたいです。中学校で海外での医療のボランティアについて知った時に、私も世界の発展途上の医療を助けたいと思いました。しかし、自分の英語力を考えたとき、あきらめの気持ち

大きくなっていました。けれど、私はまだ高校生なので学ぶ時間はありません。そこで、もう一度その夢に対して前向きに考え、叶えられるように努力してみます。

大学の論文の話を聞き、しっかりと一年間もテーマを決めて自分なりに研究できるか不安になりました。しかし、城南での探究の授業を生かしてがんばって調べようと思います。また、私はコミュニケーションがあまり得意ではないけれど、それを克服して進学や就職に不利にならないよう頑張りたいです。



206 HR 山田 桃子

私は、ずっと小さい頃から自分も大学に行くと思っていた。勉強が好きということがあり、よりは学ぶことが楽しいと思うことがあったので、大学で学びを深めたいと考えていました。何となくぼんやりと大学に行きたいと思っていたわけではないのですが、将来この仕事に就くためにこの大学に入りたいという具体的なことはありませんでした。しかし、コース選択の時期になった今、自分の知っている職業の中で最もなりたい、あこがれる職業ができました。それに向かって真剣に進路について考えました。

そして、大学について本格的に調べ始めたタイミングで、今回の城南塾がありました。高校と大学の違いから始まり、話しは海外まで広がっていきました。また、一授業九十分であることや一週間にどれくらい授業が入るのか、卒業論文についてなどの説明もありました。その中で一番心に残っているのは、やはり海外の話です。私は英語が苦手で、海外に行きたいとか全く思っていませんでした。しかし、海外では

分らないことについて何時間でも話し合いをしてくれるというので、「学びを深めたい」と、英語をがんばろうという気持ちになりました。

今回の講演で、英語へのモチベーションや大学の印象、そして将来のイメージなどさまざまな変化をもらえました。

206 HR 林 奎達

今日の講演「大学のいろは」では、講師の山口さんがいろいろなことを教えてくれました。まず、大学の授業料は何となく知っていました。高校の授業料が十万円近くもあると思いませんでした。大学と高校では授業の出席回数などに違いがあり、余程のことがないかぎり大学に行こうと思いませんでした。次に、自分が好きなこと得意なこと興味のあることをいろいろ見つけ出して、それらが多くあてはまる分野で努力し、その中のどれかの仕事に就くことです。自分は芸術の分野に進もうと思っています。自分からどのような仕事に就きたいかをよく考えていきたいです。

最も興味をひかれたのは、何かにハマる瞬間という話です。よく考えてみると、今自分は硬式テニスや絵にハマっています。どこでどうハマったのかは覚えていませんが、ハマったことをどんどん追及していくのは楽しいです。こういう体験を今後に生かしたいと思いました。また、私は留学しようとは思いますが、山口さんの話の中でどんなしゃべりかたでも、たくさんの人たちとコミュニケーションをとるのが大事と言われていました。県外には行く予定なので、私もマネしてみようと思いました。

今、私は芸術の分野でどういう勉強をしてどういう仕事に就きたいか、そのためには何が必要なのかを考えていきたいです。今回の講演で、私は将来についてより考えるようになったと思います。やりたいことがたくさんあり、それを勉強することができる今を大事にして、将来自分が後悔しない選択をしていこうと思いました。



207 H R 武富 心雪

今日の講演を聞いて、「ハマる」ということの重要性に気づきました。確かに、物事にハマると熱中して取り組むことができず。私は今まで音楽やゲーム、アイドルなどたくさんのものにハマってきましたが、考えてみると「勉強」にハマったことはないなと思いました。いつもテストのためにする、課題だからするというように、自分からやりたいと思ったことはありませんでした。でもそうではなくて、自分でやりたいことを見つけて挑戦し、自分の気になる分野を熱中して取り組むことが大切だと思っています。

高校ではみんな同じ時間に授業を受けています。でも、取り組む姿勢で吸収するものは全然ちがうと思います。私も何か一つのことに対してハマって、熱中して取り組めるものを見つけたいです。そのため、普段から積極的に学ぼうと思いました。生活の中で起こる疑問を自分で調べ、自分の知識にしていきたいです。

私はこれまで自分から知ろうとしませんでした。でもこれからはそうでなくても

と自分を開いて、社会の中で起こる疑問をもっと吸収していこうと思います。自分から行動し、知ろうとしなければハマることもないと思います。まず、そのきっかけを自分から手に入れに行きたいです。大学も自分で調べ、自分から行動することで後悔のない選択をしたいです。自分から何も行動しなければ、狭いフレームの中に収まってしまう。自分で好きなものを見つけ、それに向かって突き進んでいけるような人になりたいです。

